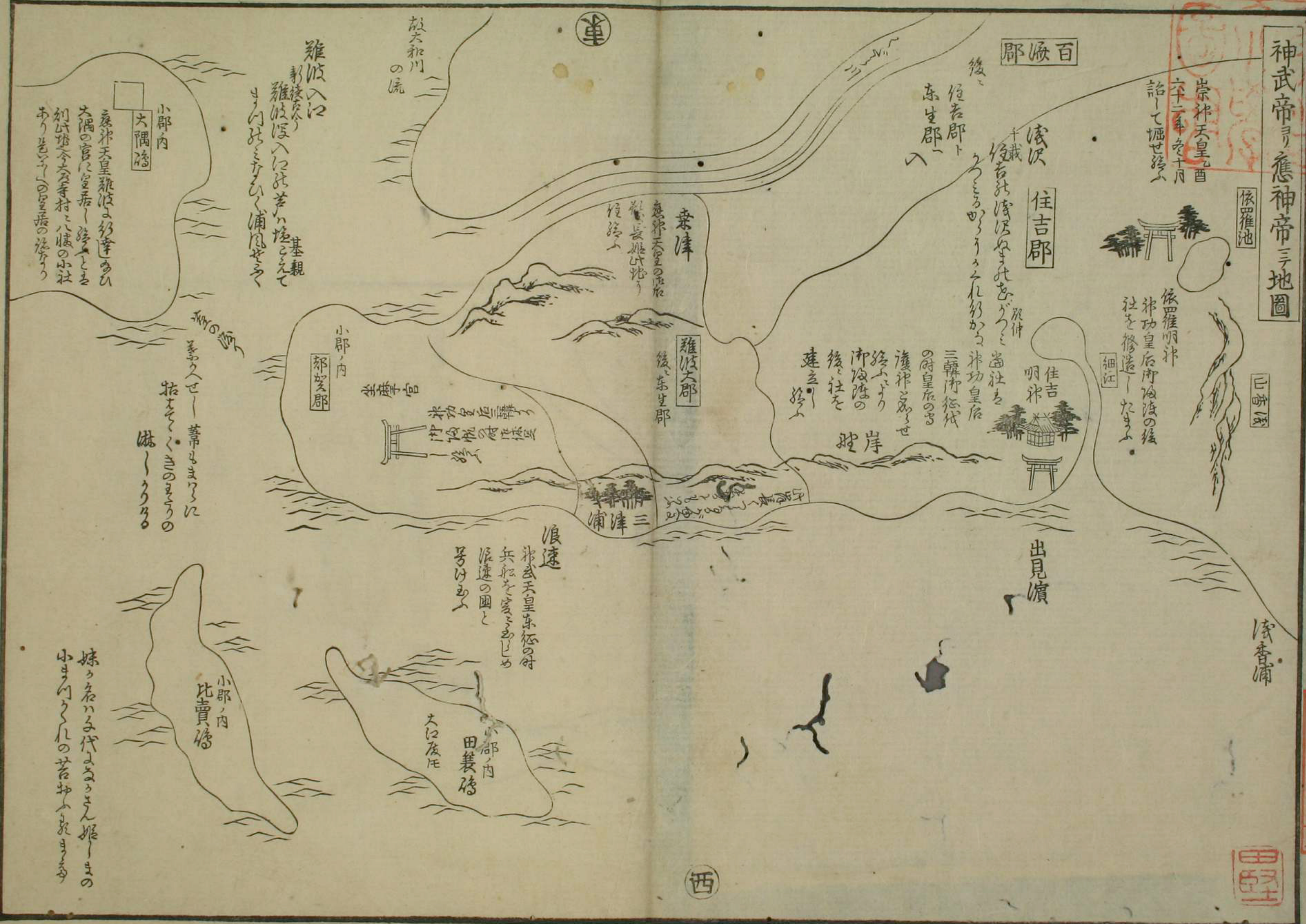


神武帝より應神帝三地圖

十六代



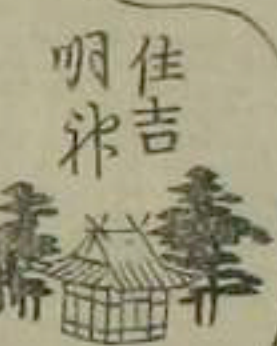
崇神天皇西
六年十月
詔して堀せ給ふ



依羅明神
神功皇后内海濱の後
社を修造したまふ

百源郡

住吉郡



出見濱

桑津

雅波大郡

東

西

故大和川の流

雅波入江

基親
雅波入江に於て
生れ給ふ

小郡内

大隅碛
崇神天皇雅波より
大隅の宮に遷居し
別宮を大隅守村に
築かす

拓よそく
比賣碛の
碛より

小郡内

比賣碛
妹の名に代りて
小まのりとの
碛に於て

田養碛

大和及庄

浪速

神武天皇東征の時
兵船を築き
浪速の國に
号け給ふ

昭和十六年一月十一日寄
尼野貴英氏贈



仁德帝御宇赤掘堀江圖

仁德

貝原氏曰
日本池の始

依羅池

依羅大明神



崇神天皇乙酉六十二年
冬十月詔して掘せ給ふ

皇太后の守護神とあり給ふ日本書記に見
神名帳より大依羅神社四坐と云
神功皇后三轉より河内陣の後よけ社と
修造し給ふ

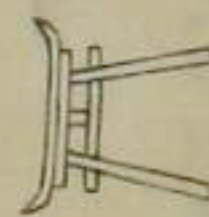
桂吉社



○桑津

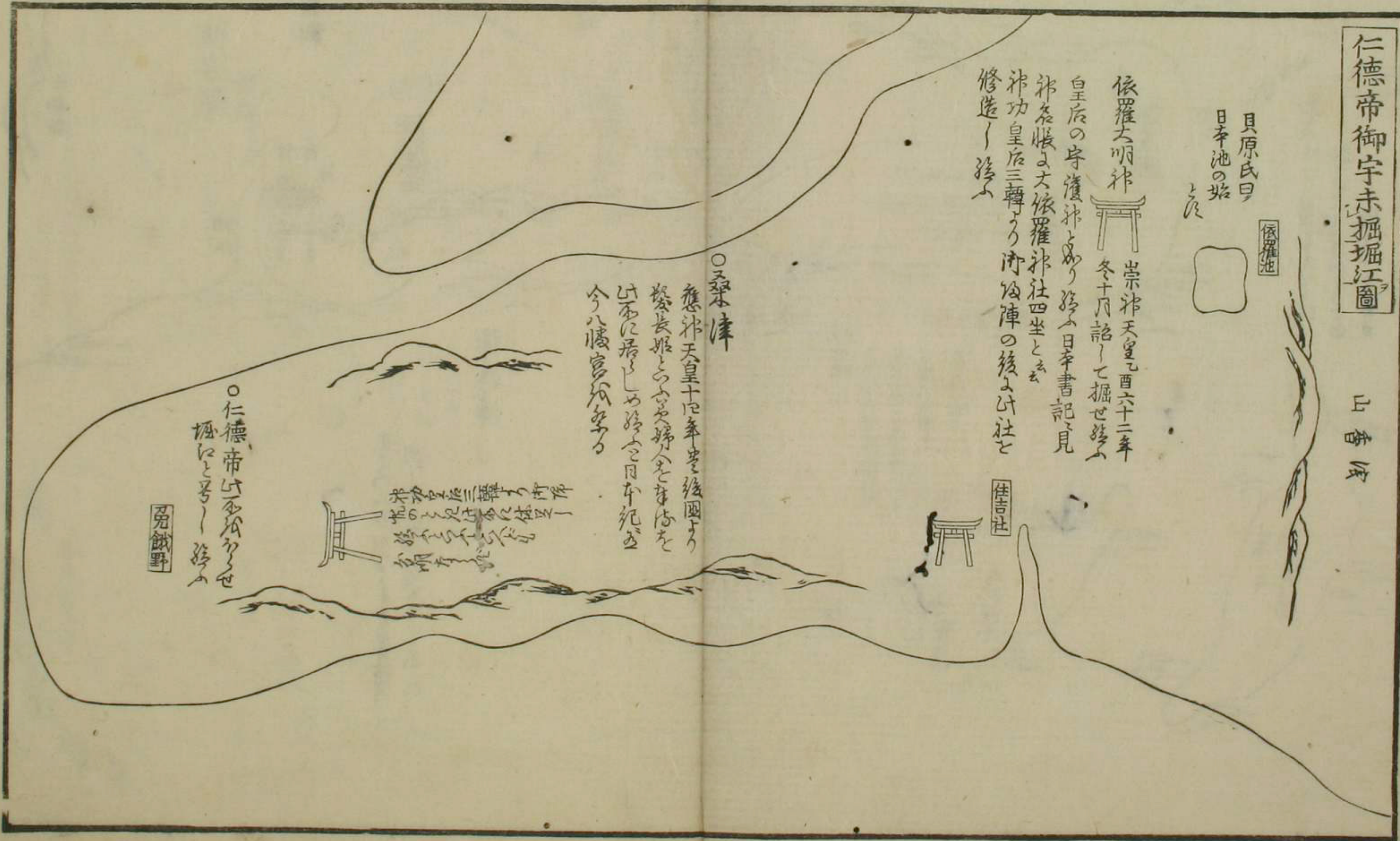
應神天皇十四年冬後國より
發長船より大長船を奉侍を
けり居りしめ給ふ日本紀云
今八幡宮なるなり

大長船三轉より河内
堀に居りしめ給ふ
今八幡宮なるなり



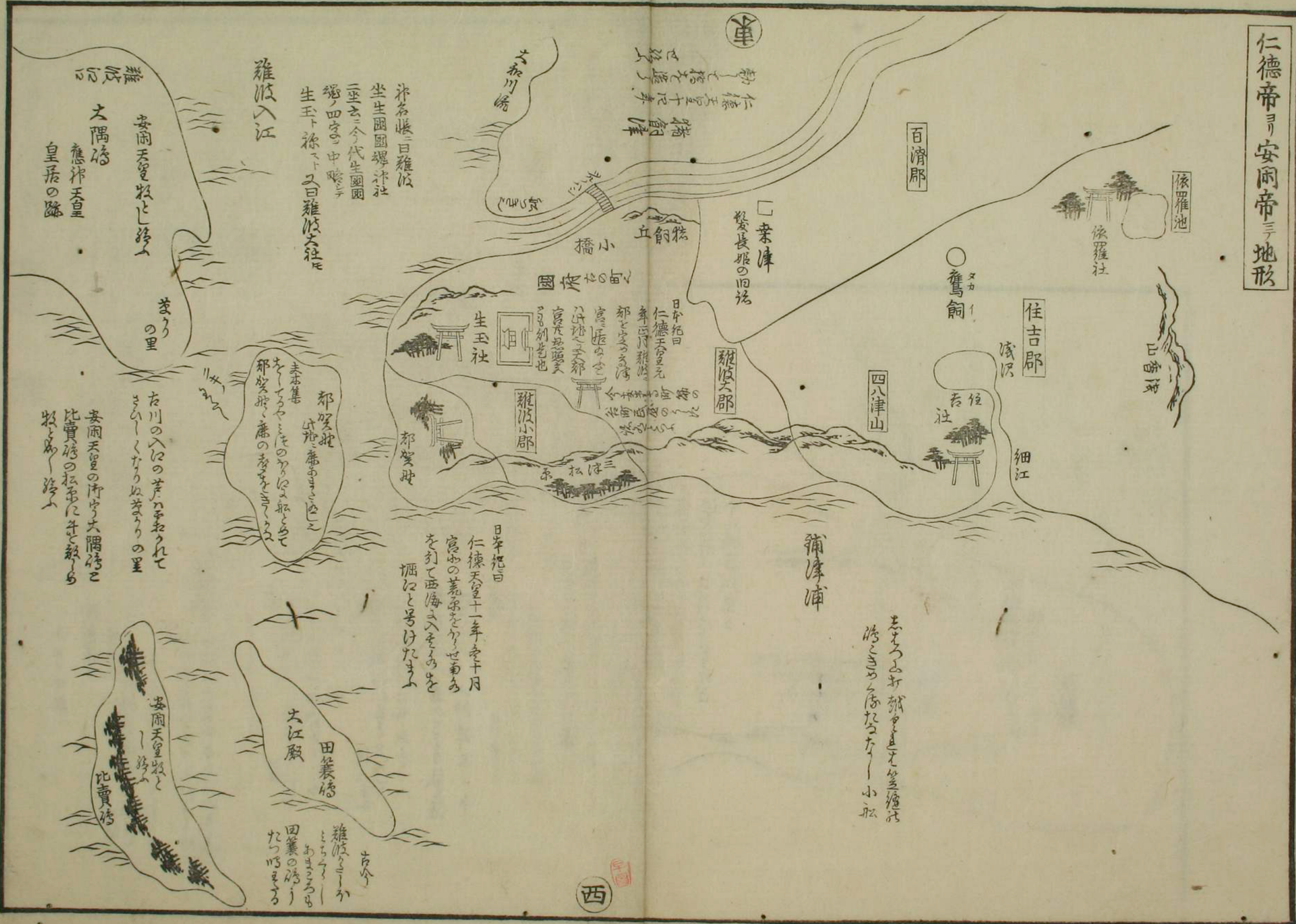
○仁德帝御宇赤掘堀
堀に居りしめ給ふ

赤掘堀



仁德天皇安閑帝地形

十七代 十八代



大隅
應神天皇
皇居の跡

安閑天皇の御所

津名帳曰難波
坐生國國魂津社
二座之今代生國魂
繩之四方の中略
生玉下津又曰難波大社

大和川

仁德天皇十一年
難波大社

桑津

難波大郡

百濟郡

住吉郡

依羅池

依羅社

鷹飼

細江

住吉社

四八津山

蒲津浦

生玉社

難波小郡

都賀社

都賀社
古河の入り口の茅の舟おくれ
さしくたりぬ茅のりの里

安閑天皇の御所
比賣の松を伐りて
敷き給ふ

日本紀曰
仁德天皇十一年十月
宮中の荒草を伐りて
を引て西海へ入るるを
堀と号けたまふ

志すふ打城を造りて
治さるる所たる方々
小船

安閑天皇の御所
比賣

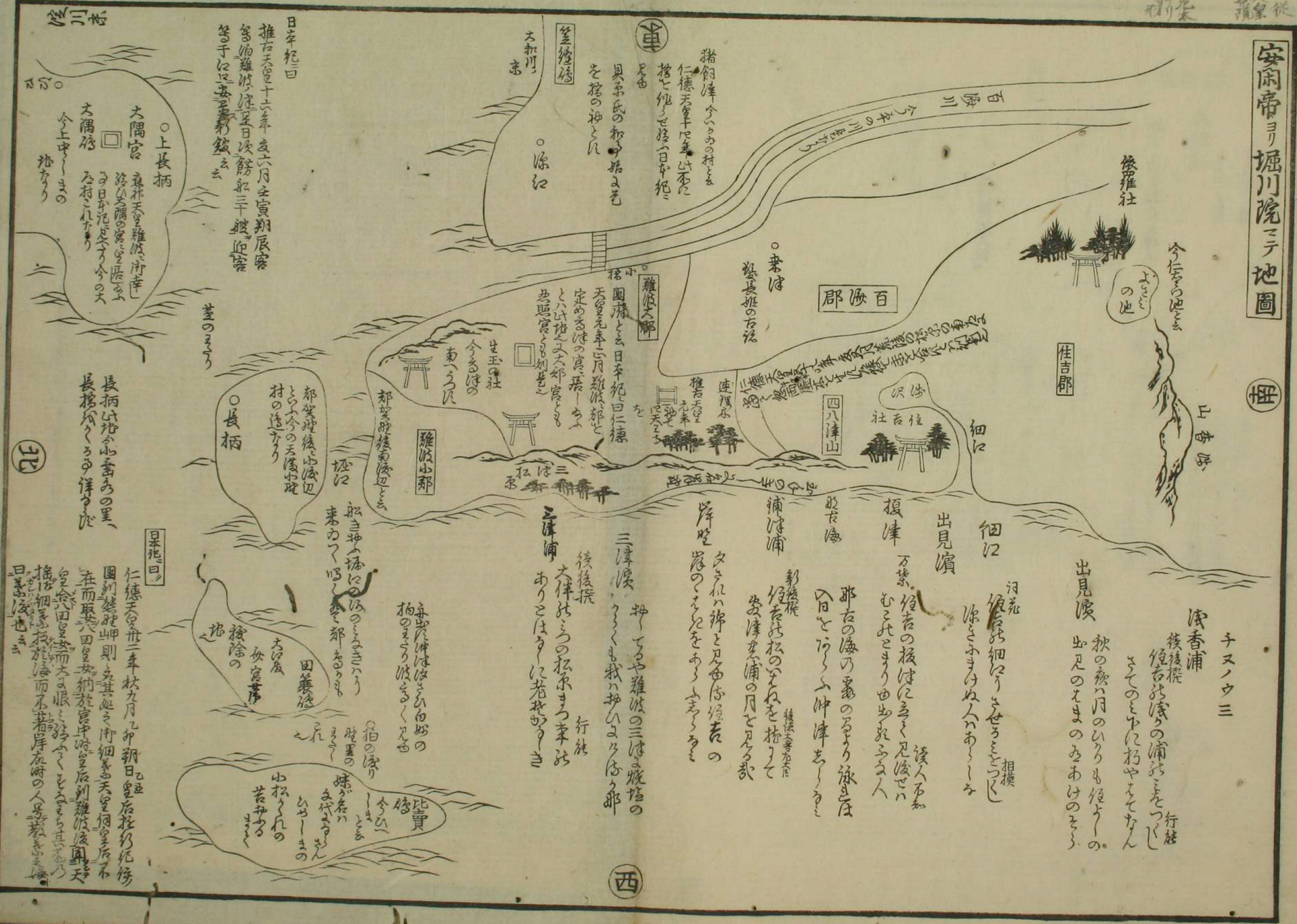
大江殿

田養
難波
田養の跡

西

安閑帝ヨリ堀川院ニテ地圖

相模乙侍從
源賴光女入皇
六十八代後醍醐
御下之人
後醍醐天皇
七十四代
後醍醐天皇



日本紀曰
推古天皇十六年夏六月壬寅朔辰宮
宮御難波建日次齋船三三艘御宮
宮于江上安置新殿云々

猪飼澤今ハウの村と云
仁徳天皇十一年辛巳春
捨レ舟ニ乗テ一日平紀
トモ
貝子氏の初子始メモ
を捨レ舟ト云

○上長柄
大隅宮 藤原天皇難波御幸
跡ハ大隅の宮ニ遷ル云
今日平紀見テ今日の大
大隅宮 乃村ニ見テ
今日上中ノ宮の
跡ナリ

長柄は地今ハ高木の里、
長柄はくろの洋ナリ

日本紀曰
仁徳天皇廿二年秋九月乙卯朔日
皇太后后在行紀傍
園別莊神岬則云其處ニ御細草天皇御宮居不
在而取六田皇女納於宮中時皇太后到難波後園天
皇皇太后田皇女而大眼ニ見テ云々其皇太后乃
捨レ細草皇女於海而不著岸在府の人号難波之海
曰難波也云々

都賀野後ハ後田
と云今ハ高木の里
村の造ナリ

船三津浦ノ所の云々
末のつらき都賀野
田養徳
大田原
後除の
地

比賣
今ハ
小松ノ所の
若草

三津浦
後後撰
大伴此ノ所の松木マツ草
ありこはるに若草あり

出見濱
万葉 燈台の板付に云々見後
むこれと云り由少れ云々人
那古の海ノ裏のるより泳ぎ
入向と云々云々仲津云々

濱香浦
後後撰
後吉野濱の浦云々をつ
さとのと云に朽やと云
秋の初ハ月のいろりも後
出見のそまのみあけのそ

千ヌウ三
行能
後後撰
後吉野濱の浦云々をつ
さとのと云に朽やと云
秋の初ハ月のいろりも後
出見のそまのみあけのそ

